

# 新建築

SHINKENCHIKU:1996

2



# 多摩川幼稚園

設計 渡辺治建築都市設計事務所

# 多摩川幼稚園

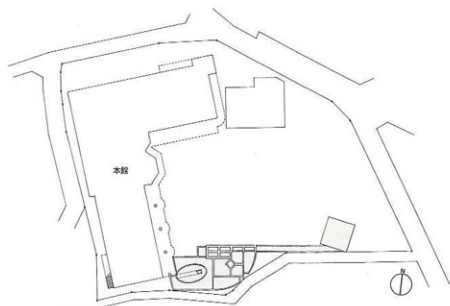
東京都あきる野市

設計 渡辺治建築都市設計事務所

施工 大成建設

TAMAGAWA KINDERGARTEN

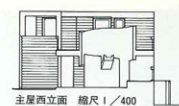
architects : OSAMU WATANABE ARCHITECT & ASSOCIATES



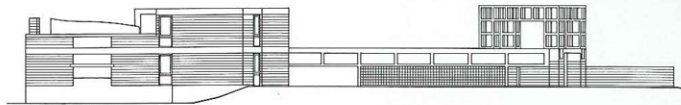
配置 縮尺 1/1,200



バス乗り場西立面 縮尺 1/400



主屋西立面 縮尺 1/400



南立面 縮尺 1/400



鉄骨フレームの屋根をもつ遮避バス乗り場。中に設置された遊具で遊ぶ子供たち。

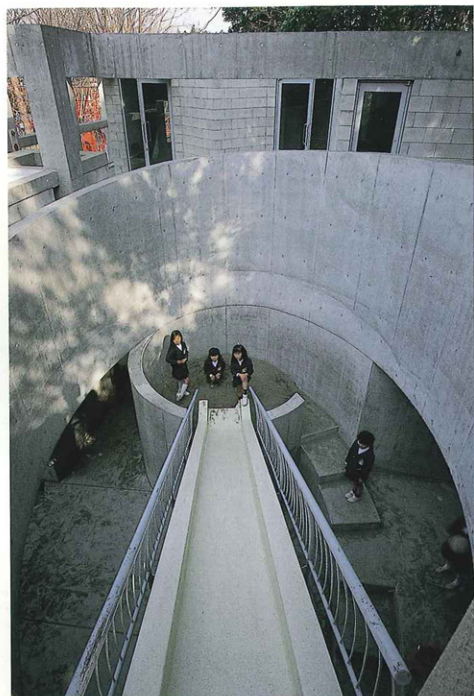


バス乗り場へのブリッジ。ブリッジに直接遊具が取り付けられている。



撮影 本誌写真部

本館の非常用通路も兼ねている滑り台は子供たちの格好の遊び場。



滑り台より見下ろす。



西より見る。外壁：コンクリートブロック撥水剤塗布，コンクリート打放し。



南よりブリッジを見る。下部は南側の緑が見えるように穴開きブロックが積まれた。



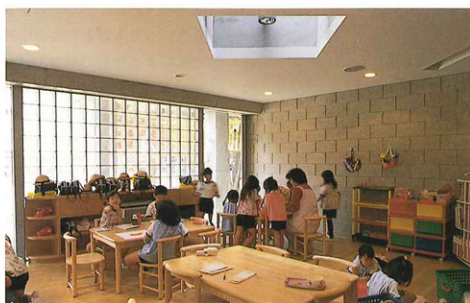
役員控室変越しに南の緑を見る。ガラスブロックのトップライトによって採光を確保している。



北側夜景外観。



北立面 縮尺 1/400



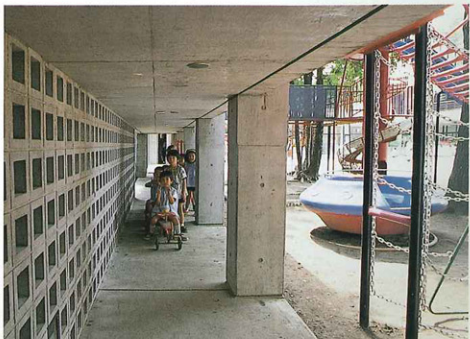
役員室。天井にトプライトが取られている。



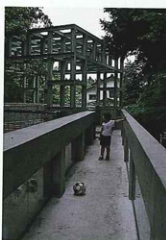
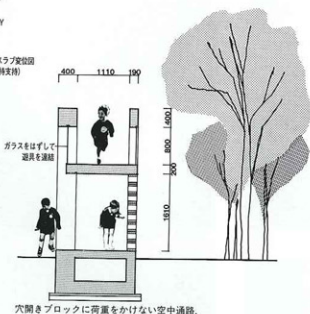
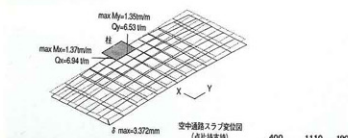
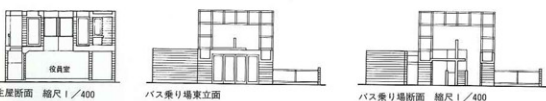
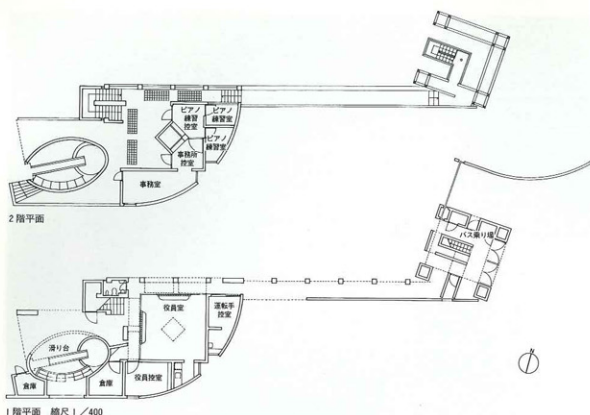
ブリッジより本館方向を見る。



バス乗り場を見る。



ブリッジ下の通路も子供の身長にあわせた高さ。



建物自体が子供たちの玩具になる。(写真撮影：渡辺治、3点とも)



## 至極玩具の物体也

この建物は、幼稚園を補完する機能をもった付属施設として委託された。

子供が本館からバス乗り場まで雨に濡れずに到達可能とする。バス乗り場に屋根とモニュメントがほしい。可能な限り諸室を確保する。既存遊具と関連づける。背後の緑を妨げない。以上が提示された条件だった。バス乗り場は本館のヴォリュームを意識したモニュメンタルなゲート、通路は遊具が連結可能なものとし、高さは子供のスケールに低く押さえ、南側に緑が濃いので主要な採光は上から確保することにした。既存遊具を建物に連結してどう収支をつけるかが、ひとつの難問だった。遊具でもっとも人気の高いのは滑り台で、その座は長い間他に譲ってはいない。挑戦して成しとげることが人間に備わった根源的な喜びのひとつということなのだろうか。この建物は、ゲート部の登りと螺旋壁部の滑り台、そして両者を結ぶ空中通路という成り立ち。大まかには滑り台である。通路に連結された既存遊具を子供たちはいろいろに登り、滑り台のあるほうへと走り、登った行為に終止符を打つ。実際に通路上を子供はよく駆け抜ける(滑り台は本館の非常用)。

園児は周辺に住んでいるので、卒業後も幼稚園は地域に精神的な影響を少なからず及ぼし続ける。そういった人びとの中になにか気にかかる碑のようなものがつくれないかということ考えた。普通、彫刻はただ眺めるだけだが、この建物は子供たちの遊び相手になり、その結果心に残る空飛ぶファルコンのような存在になっていくことを願った。家を巣立った後でもまたいつか卒園生が建物に逢いにくるといったことがおきないだろうかと思像する。竣工後も早速遊具が増やされ、通路や階段の踊り場に連結された。訪れるたびに何かがつけ加えられている。遊具のよし悪して子供は入園先を決めると教えてくれた長谷川園長さんは、「これでどこにもない総合遊具になる」と張りきっている。(渡辺治)

設計 建築 渡辺治建築都市設計事務所

構造 森山構造設計室

設備 環境設計

施工 大成建設

敷地面積 3,260.47㎡

建築面積 191.62㎡

延床面積 175.73㎡

階数 地上2階

構造 コンクリートブロック造 ゲート部：型枠  
コンクリートブロックによる縦構造+鉄骨造

工期 1993年10月～1994年4月

(データ=P 278)

## ■多摩川幼稚園

所在地 東京都あきる野市雨間

主要用途 幼稚園

設計 渡辺治建築都市設計事務所

建築担当/渡辺治 白鳥尚子

監理担当/渡辺治

構造 森山構造設計室

担当/森山孝治

設備 環境設計

担当/田浦哲

家具 浩介家具研究所

担当/伊藤浩介

施工 大成建設

担当/掛礼園昭 平沢俊六

空調・衛生・電気 日新エンジ

ニアリング

面積

敷地面積 3,260.47㎡

建築面積 191.62㎡

延床面積 175.73㎡

1階 128.41㎡/2階 47.32㎡

建ぺい率 5.88%(許容:40%)

容積率 5.39%(許容:60%)

階数 地上2階

寸法

最高高 6,114mm 軒高 5,564mm

階高 1階:2,997mm

天井高 2,417mm

主なスパン 2,800mm×2,800mm

地域地区 第1種住居専用地域 防火

無指定地域 第1種高度地区

道路幅員 東4.5m 西4m 南2.4m 北

4m

駐車台数 11台

構造 コンクリートブロック造 ゲー

ト部:型枠コンクリートブロッ

クによる壁構造+鉄骨造

杭・基礎 鉄筋コンクリート布基礎

空調設備

空調方式 東京ガス TES方式(空冷

暖房+床暖房システム)をフロ

バンに転用

熱源 プロパンガス給湯器

衛生設備

給水 直結方式

給湯 プロパンガス給湯器

排水 生活排水:直結式 雨水排水:  
浸透式

電気設備

受電方式 本館から受電(15kVA)

本館:3φ3W6.6kV

設備容量 11.6kW 契約電力:100  
kVA

防災設備

消火 消火器

排煙 自然排煙

その他 自動火災報知設備 非常放送

設計期間 1992年12月~1993年10月

施工期間 1993年10月~1994年4月

外部仕上げ

屋根 シート防水 防水モルタル

外壁 コンクリート打放し コンクリ

ートブロック撥水材塗布

開口部 アルミサッシュ焼付塗装(不

ニサッシ) スチールサッシュ

OP

内部仕上げ

役員室

床 木組コンパネ下地 床暖房用ナラ

フローリング

壁 コンクリートブロックサンドブラ

スト・研磨処理(太陽セメント)

天井 LGS下地 PB②12mm EP

事務室

床 磁器質タイル(リョーフ)

壁 コンクリートブロック

天井 コンクリート打放し

撮影 本誌写真部

## ◎渡辺治プロフィール

1959年北海道生まれ/

1983年北海道大学建築学

科卒業/1985年同大学大

学院修士課程修了/1986

年ペンシルバニア大学修

士課程修了/1991年東京

大学博士課程修了,マン

チェスター大学奨学生/

1991年渡辺治建築研究所

設立/1992年渡辺治建築

都市設計事務所に改称/

現在,千葉工業大学講師